

県産品の販路拡大を

50人が更なる飛躍を決意

県産品の販路拡大を

県コンクリート製品協同組合(保美善和理事長)は21日、千葉市中区の京成ホテルミラマールで「28年賀詞交歓会」を盛大に開いた(写真)。当日は、会員ら約50人が出席するなど、新年の門出に相応しく盛況な様子を見せた。

会の冒頭、保美理事長があいさつに立ち、「穏やかな天候の三日で、今年は良い年になるかもしれない」と期待。その一方で年明けから株価が乱高下するなど不安定な状況を懸念し、「昨年以上に飛躍しなければならぬ」と指摘した。

その上で、県産品の使用拡大が組合の最優先課題であることに触れ、「県の出先機関やコンサルタント」



保美理事長は「産品を配ってほしい」と語り、認定工場検査やISO 9001等の取得、技術・品質の向上に

後、県民生活の安全・安心確保を担う存在であってほしい」と日頃の県土整備政策等への協力を感謝。

続いて、県中小企業団体中央会の今関光俊事務局長もあいさつに立ち、今年の手支が丙申(ひのえさる)であることに触れ、「樹木で例えれば、実がつき実熟する手前」と説明。「これまでの努力が実を結び、目に見える形になって現れる年になるだろう」と期待した。

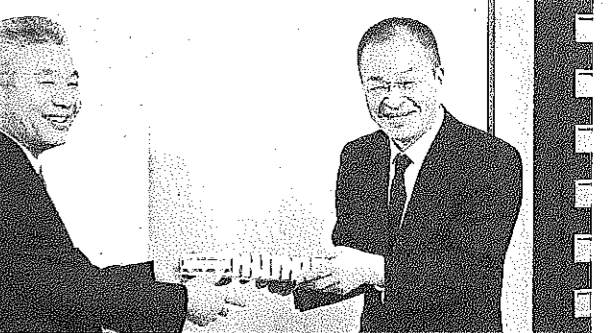
来賓あいさつに続き、昨年5月の総会で任期満了に伴って勇退した前理事長の花澤長文氏に記念品が贈られた。花澤氏は保美理事長から記念品を

受け取った後、「多くの支えがあった4年間の理事長職が務められた」と感謝を述べ、今後、県産品の発展を支援していく姿勢を見せた。

続いて、全国コンクリート製品協会関東支部の岡村清孝支部長の「新しい事業を手がけ、良い運を掴み取ろう」という力強い発言で全員が乾杯。和やかな雰囲気の中、新年のあいさつと交流を深めた。



保美理事長(左)から記念品を受け取る花澤氏



保美理事長(左)から記念品を受け取る花澤氏

日本建築家協会関東支部千葉地域会(丁)IA千葉、榎本雅夫代表は21日、千葉市内のホテルで新年会を開催した(写真)。駆け付けた会員や協力会員ら約80人は、新しい年の門出を祝いながら旧交を深めるとともに、ことし1年の業界の発展や職能認知、業務環境改善などを願った。

行事参加

新年会



花澤氏

景観整備機構に指定されている県建築士事務所協会(鈴木兼次会長)は23日、第6回目の「景観まちづくり講座」を開催した(写真)。今回のテーマは「景観まちづくりの方法と仕組み、建築デザイン誘導の実践」。専門家を講師に招き、まちづくりにおける景観のプロセスなどを学ぶことで、

景観整備機構に指定されている県建築士事務所協会(鈴木兼次会長)は23日、第6回目の「景観まちづくり講座」を開催した(写真)。今回のテーマは「景観まちづくりの方法と仕組み、建築デザイン誘導の実践」。専門家を講師に招き、まちづくりにおける景観のプロセスなどを学ぶことで、

ルールづくりや支援制度等についての知識を得た。当日は始めに、県建築士事務所協会・景観まちづくり委員の宮下登久氏が「建築デザイン誘導の実践」をテーマに講義し、△空間の共有化△ルールづくり△マルールの運用△デザイン言語の4点を解説。

その中で宮下氏は、多くの人が共感を得られる目標空間像の構築や、ルールの内容を設計要素に反映し、建築士等の専門家がデザインの誘導・支援を進めることが重要だと説いた。

景観づくりへ4講義

次回、成果を発表

建築士協会 事務所

千葉市管工事関連団体が合同賀詞交歓会

千葉市管工事関連団体の合同新年賀詞交歓会が21日、千葉市中央区の京成ホテルミラマールで開かれた。当日は、千葉市の神谷俊一副市長をはじめとする千葉市関連の幹部職員などを来賓に招き、関係者80人とあわせて新年の幕開けを祝った。

千葉市管工事関連団体は、千葉市上下水道指定工事店協同組合(細谷浩一理事長)、協同組合千葉設備協会(池田潔理事長)、県水道管工事協同組合(鈴木賢治支部長)の3団体で構成している団体。冒頭、主催者を代表してあいさつに立った池田理事長は、「昨年の担い手3法の改正について言及し、「減災・防災やインフラ施設の老朽化

への対策など、我々の仕事は増えてきたものの、現場で働く人間が高齢化しており、厳しい状況は続いている」と危惧し、運用指針の浸透へ期待を寄せた。

また、千葉市も学校施設を中心に改修・更新事業が進められていることにも触れ、「国から補助金などできるだけ多く確保するとともに、地元企業の育成に向けて優先的に発注してもらいたい」と要望し、若手担い手の確保には安定した受注が企業には必要だと説いた。

副市長は、日本初のエアレス開削や東京オリンピック、パラリンピックの正式競技開催決定、車椅子バスケットボールのオリンピック予選開催など、昨年を振り返るとともに、耐震化事業に続き、今後は学校施設等の老朽化対策を積極的に進めていく方針を示し、「トイレやエアコンの設置、再生エネルギーの助成制度など、今後も業界の協力が必要

このほか、来賓の祝辞では、顧問を務める中島賢治、松坂吉則の両千葉市議会議員があいさつ。「工事発注の平準化や入札・契約方法の改正など、発注される多くの仕事を地元企業が適正価格で受注できるように、顧問として後押ししていく」と明言した。

そのあと、池田典夫建設部長の「これからも適切な積算・設計に心掛け、安全・安心なまちづくりに向けて確実に事業を取り組んでいくので、今後も一層の協力をお願いしたい」という発言で全員が乾杯。新年度のあいさつと交流を深めた。

最後に、村上廣司委員長が、景観まちづくりを支援する仕組みについて解説。「景観は未来に残す原風景である」とし、歴史的建造物の活用や保存方法、その課題について説明した。

地元企業へ優先発注を

80人で門出祝う 官民一体の取組要望



池田理事長も入札制度の改善や発注の平準化などを訴えた。これに対して神谷



全員で乾杯、交流を深める

